

11 月 13 日長野地区の年長交流が、長野市上高田保育園で行われました。

午前は、リズム・歌。午後は、子どもたちが日本の伝統文化を楽しめるようせんぜもんさんの舞台を観ました。長野地区は、1 時間から 1 時間 3 0 分位で、集まることのできる立地条件にあります。

また、全体の年長児は、約 7 0 名位という集団ですので、ひとりひとりの顔がよく見えます。それだけに、担任たちも、子どものお手本となるよう自分たちのリズムを見直す機会にもなりました。また、補助の仕方も学び合えます。今回は、運動会が終わって、最初の年長交流であり、みんなが楽しみにしていました。歩くリズムや五色の玉の集団リズムをとり入れながら、子どもたちの真剣で集中した姿が見られました。

お昼後の絵をみての話し合いでは、縄跳びのリズムでは、「相手の動きを察して、上手によけていた」ことに、年長児たちの成長を感じたという感想がでました。そして、スーホの白い馬、さるかに合戦、たきぎとりのうた、負けウサギのプット、森から森へ～ありがとうの歌がのびやかにホールに響き、素敵ナリズム交流となりました。

午後からは、「せんぜもんさん」による獅子舞、独楽回しを楽しみました。全員が頭を噛んでもらいました。様々な独楽回しにも拍手や歓声が出ました。このような日本の文化に触れて子ども達は大喜びでした。この 11 月の交流は、1・2・3 月の交流に繋がっていきます。



噛まれる海野のかもしか組



地下壕



山の子保育園 年長おおわし組

12 月 4 日から 6 日にかけて伊那市にある信州高速青少年自然の家にお泊まり保育に行ってきました。このお泊まりでは、高遠の大自然に触れたり、広いプレイルームでリズムやドッジボールなどを楽しみました。また、クリスマスの制作もしながら三日間の時間を仲間と共に過ごしてきました。

毎年この施設にはお世話になっていますが、今回は施設の方に恩返しということで壁画作りをすることにしました。施設の周辺は広大な自然が広がっていて、自然の営みを肌で感じることができます。このお泊まりで楽しく生活している様子を子ども達が場面を分担し壁画作りを進めました。施設の方も大変喜んで下さり、施設内に展示してくださるそうです。3 月にもう一度お泊りをするのですが、その時を楽しみにしています。

山の子



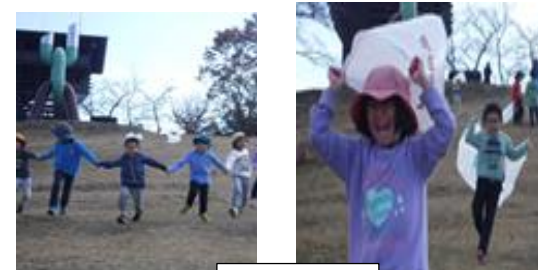
やまのこ



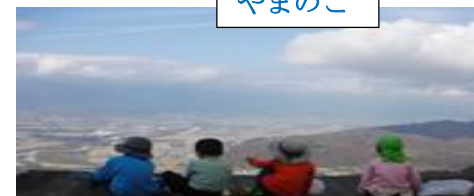
山形やまのこ保育園

秋の天平の森お泊り報告（11 月 7 日～8 日安曇野市にて）

私たちは、一泊二日で安曇野市長峰山にある天平の森のコテージにお泊りをしました。紅葉を見ながらの旧国鉄廃線敷きハイキングや、長峰山の自然の中に身をおいて、時間にとられることなく、仲間と遊び過ごす楽しい時間になりました。自然の中には、遊ぶものが見つければみつけるほど、いくらでも出てきます。子どもたちも発想を膨らませて山での遊びを楽しんでいました。また、今回は夕食のカレー作り、二日目のお弁当作りに子どもたちが関わり、「自分たちの食事を自分たちで作る」という体験も新鮮だったようです。たくさん楽しく遊び、充実した二日間を過ごした経験は、後に絵にも表れそれぞれの思い出を表現豊かに描いていました。



やまのこ



戦争と平和を考える職員研修—長野市上高田保育園 藤原

松代大本営地下壕（長野市）・大島博光記念館・ひとミュージアム上野誠版画館

上高田保育園では、年 1 回、職員平和学習会を行っています。今回は、9 月 8 日、11 月 17 日の 2 回、松代大本営地下壕、大島博光記念館、ひとミュージアム上野誠版画館を見学しました。松代大本営地下壕は、大島博光記念館事務局の小林そのさんのガイドでした。本土決戦に備え、軍の機関と天皇を守る計画で 6 キロに及ぶ膨大なトンネルを掘ったとのこと。昭和 19 年 11 月 11 日から終戦日までの 9 ヶ月という短期間で約 80%まで建設したといひます。米国議会図書館で、動員された朝鮮人とその家族 2 千名を超える名簿の存在が明らかにされました。多くは、朝鮮半島南部出身者で、1 5 歳以下の子どもも数多く含まれていたそうです。

長野市松代には、松代の詩人でフランスのレジスタンス詩人アラゴンの研究者である大島博光の記念館があります。小林そのさんによる愛と平和のために書かれた博光の詩の朗読があり、私たち職員も彼の作詞「春がきたら」を合唱して応えました。尚、当館には、チリ軍政下で苦しんだ女性たちが制作した「アンピジェラ」の展示があり、圧政に苦しむ庶民の生活が鮮やかな色彩で表現されていました。午後は、長野市川中島今井にある「ひとミュージアム上野誠版画館」を見学しました。館長の田島隆さんは、郷土で反戦版画家上野誠の存在を知り、学生時代に衝撃をうけたケーテ・コルビッツの作品とともに、私財で版画館を開設しました。上野誠が原爆で苦しむ人たちに直接出会い、心に寄り添い版画を制作したという言葉が印象に残りました。私たちは、当館のピアノの前で丸山亜季さんの曲を合唱して、平和を子どもたちに残す役割を負っていることを胸に刻み、研修会を終えました。

職員の感想○朝鮮の方が労働者として、寒さや、飢え、ダイナマイトで命を落とす人。中には 1 4 才の子どもまで拉致された話に衝撃をうけた。○アンピジェラが展示しており、色彩やかできれいだと思って見たら、チリの女性たちが政治弾圧で家族を失ったり、貧困に苦しむ日常生活をモチーフに制作されたキルトと聞いて衝撃をうけた。○表現されている人々の悲しみ、苦しみ怒りを感じ心が痛んだ。⑤上野誠の弱い者に魅かれるという日記に、自分も保育士という立場から弱さを持った子どもに寄り添っていききたい。○田島館長の「私たちに出来ることはほんの小さなことかもしれないが、やるだけの何かはあると信じて手を取りあって、歌をうたって、子どもの未来を守るためにいっしょにやっていきましょう」という言葉が心に残った。